

# 教育センターだより

第29号



## 目 次

|                     |   |
|---------------------|---|
| 巻頭言「ホウとカク」          | 1 |
| 研修・研究の抱負と構想         | 2 |
| 本年度の刊行物紹介           | 3 |
| 昭和57年度研修員の紹介        | 4 |
| 県内教育研究機関の活動方針       | 5 |
| 教育研究法委員会の活動         | 5 |
| 告知板                 | 6 |
| 全県児童・生徒理科研究発表大会について | 6 |



## ホウとカク

所 長 荒 谷 浩

先日、うちの生物担当の藤井さんと車に同乗したとき、談たまたま「ゆたかさ」に及んだ。

県総合発展計画の課題3「豊かな県民性を培うために」を受けた、長期総合教育計画の実施1年目、「真の豊かさ」が問われ始めた第4次総合開発計画からかぞえと7年にもなり、いろいろな論議を耳にした。そして、大体のところ、四総の、くらしと環境と心の豊かさが、正三角形に調和のとれた姿となること、これが、真の豊かさであるとする定義に落ち着いたように思う。

藤井さんと私が話合ったのは、しかし、そんなおそれたことではない。学校で「ゆたかさ」と言う場合どんなことを考えたらいいか。たとえば、量が多いことか、種類が多いことか、それとも質か。

中国流に言えば、豊はもともと、高杯（たかつき。豆は、穀物でなく容器の象形）に、ささげものが一杯入っている状態を示す。その音、ホウを他の字によってみると、一般に、おおらかで、ゆとりがあり、こだわりのない状態である。包・抱・采・放・芳・傲・崩……大体、そんな意味合いである。

ホウの対称は、カクである。

孔子が、「とても私はできません」と、けんそんした門弟に「女画」と言った。「お前は、自分に自分でわくをはめている。（自己限定は、いかん）」と言ったのである。女は汝。画は、区画であり、限定であり線引きである。

確・角・各・格（ただす）・覚・廓。おおむね、分

析的であり、個をとらえて弁別しようとし、鋭利である。

我々の研究や研修にのぞむ態度、あるいは教育相談等のサービス活動においても、ホウとカクのバランスがうまくいくような心くばりが必要だと思う。いや、ひとり教育センターの経営にとどまらない。人間の生き方もまたしかりであろう。

家庭教育の原点を厳父慈母だなどと言ったら、近ごろのスマートな家庭教育学者には笑われようが、これを、規準と許容・倫理学と心理学・確と豊と置き換えれば、調和のとれた人間性を育てる原理として、一向に古くはなからうと思う。

センターでも学校でも教育機関でも、最も心すべきは、縄張り意識・確実主義・トリビアリズムである。

感動して茫然としている子供は劣等生だろうか。いちいち感動の中身を説明しなければならないものだろうか。茫然としている存在そのものが立派な説明ではないか。

研修講座の中に、野外観察がある。初等理科の発想からすれば、目にふれるものすべて観察の対象になってしかるべきではないか。幼稚園児を植物観察につれて行った。子供達は、ワッとアヒルに走り寄った。そのとき、いっしょについて行った先生が「アヒルはこの次、今日はお花よ」と言ったそうだ。ばかばかしい話じゃありませんか、と茶飲み話に理科の島山さん鎌田さんに言ったら、さっそく、藤井さんに「ホウですわ」と言われた。一本参った次第である。

## 研 修 ・ 研 究 の 抱 負 と 構 想

### ゆとりある充実した学校生活を 実現するための学校を求めて

— 経 営 研 究 室 —

教育課程の趣旨を常に確認し合いながら、それを教育経営に生かす各学校の主体的な取り組みができるように講座運営と研究を深めていきたい。当室で担当する学校経営、学年経営、学校評価等の研修講座では、全県的な動向を基盤に、学校教育指導の創造を目指し、より望ましい方向をさぐり、改善の方策について具体的に研修する。

新規採用教員を対象とする教職教養研修講座で、校種別にし、教職についての基本的な事項をじっくり研修するよう計画している。

また経験5年後の教員を対象とする教育方法研修講座は、学級経営、生徒指導、学習指導、教育評価等の分野をセットし、テキストをもとにしながら、演習の機会を取り入れ、より専門的な研修を深め、指導力の向上を期している。

学校経営講座についても、新任教頭、教務主任、総務主任等が経営指導の役割を遂行するために必要な職務上の問題点が解明できるような研修になっている。

学年経営講座も校種別にし、理論と実践の両面から研修を深め、学校経営のスタッフとして、資質の向上が図れるよう計画されている。

学校評価講座については、評価方法や今日的課題を研修するようにしている。

なお、本年度も「学校経営の改善に関する研究」を継続して進めていく。

### 新教育課程に即した研修・研究 の充実を目指して

— 教 科 研 究 室 —

本年度は、小・中・高等学校における新しい教育課程の基準の実施に対応する講座運営と指導・評価にかかわる研究推進を重点目標としていきたい。

小・中学校関係の講座として、国語、社会、算数・数学では教科の指導理論や観点別学習状況の評価などを内容としている。図工・美術では紙のもつ特性を生かした実技研修を計画している。また、小学校社会の檜台の地域観察、小学校音楽は専科担当者を対象として「鍵盤和声による即興演奏」を秋大ML室を会場に開講する。

高等学校関係の講座として、国語、社会、英語では新設科目の学習のあり方や指導法を内容としている。音楽では西洋音楽の記譜法の発展と楽器論について講座を新設している。数学では大阪大の梶田叡一先生に「教育評価」の講演をお願いしている。また、イングリッシュ・セミナーは外人講師多数による口頭運用面に重点をおいた中・高等学校参加者の宿泊研修を計画している。

調査研究として、「高等学校音楽における鑑賞指導の改善に関する研究」をテーマに発表を予定している。なお、学習指導資料高等学校社会科「現代社会」の研究、2か年継続の秋田県郷土教育資料—歴史学習編—の作成をすすめている。

### 個を生かす学習指導の改善

— 教 育 工 学 研 究 室 —

昭和50年、室開設以来、「個を生かす、教授＝学習システムの開発」を推進してこられた、吉富前室長がご栄進なさった後を、高橋、鎌田、笹木、村川の4人で、研究室の仕事を引き継ぐことになった。

現場の先生方の教育工学に対する関心や研修への要望は高く、室員もこれにこたえるべく自己研修に努め指導力の向上を図ろうとしている現在である。

教育工学基礎研修講座は、前期3日間、後期2日間で、前期には、学習指導プログラムの作成を中心に、目標分析、形成的評価、ソフトウェア製作について、講義と演習を計画し、また、文教大の金子教授に講演をお願いしている。後期には、前期の研修をもとに実践したデータを持ちより、教育工学的手法による指導と評価について、さらに研修を深める。

教育機器利用研修講座は、VTR、TP、スライド教材等の製作をもとにしながら、教育機器利用の理論及び実際について研修を行い、学習指導法の改善を図ろうとするものである。

教育工学中級研修講座は、基礎講座の修了者及び各地域で推進的な働きをしている教員に対し、プログラム学習理論、学習プログラムシートの作成等、一層高度な技能の習得と指導性の向上を意図している。

奉仕活動の面では、今年度も随時研修の希望が多いようなので、各校、各地の課題解決に役立つよう、内容の充実したものにしたいと考えている。

### 児童・生徒の発達に即し、より直接経験を重視する理科学習の実現を目指して

理 科 研 究 室

#### ○研究講座について

〈小学校〉 低学年理科Ⅰ・Ⅱ、中・高学年理科Ⅰ～Ⅳ、理科経営の各講座を行い、児童の発達段階に即した理科学習の進め方や観察実験法及び理科経営の在り方等について検討する。

〈中学校〉 理科教育講座Ⅰ・Ⅱを行い、学習指導要領の改訂の趣旨を生かした学習の進め方や新しい観察実験法及びその取り上げ方について検討する。

〈高等学校〉 理科教育（本年度は化学と地学）、理科Ⅰ（物理、化学、生物、地学の各領域）の各講座を行い、学習指導要領の改訂の趣旨の具現化に努めたい。

更に、野外観察Ⅰ・Ⅱ、天体観測Ⅰ・Ⅱ、教材製作Ⅰ～Ⅲの各講座を行い、より直接経験を重視する理科学習の実現に備えるようにする。

#### ○研究事業について

高等学校に新設された理科Ⅰの主な観察実験法を前年度に引き続き「理科Ⅰ実験観察カード第2集」にまとめ、各高等学校に配布して理科学習の一助にしたい。

また、理科学習の手引き書として「野外観察の手引き（動物編）」（昭和58年度発刊予定）を作成するために資料収集等の研究を進めている。

更に、全県児童・生徒理科研究発表大会の開催や地区理科教育センターの研修事業への協力、全国理科教育センター研究協議会並びに研究発表会（初等理科部会）の開催など広範囲にわたって努力して行きたい。

### 講座内容の工夫と充実を

技 術 家 庭 研 究 室

本年度の講座は、新規に計画を組んだり受講人数を削減するなど講座内容の充実を目指している。

小学校家庭科教育研修講座では、新しい内容を取り入れ3年計画で実施することになっている。野菜や卵料理に関することや、洗濯等に関する実験実習を通して、直接学習に役立つ資料作りをし、さらに指導力の向上をねらいとするなど、内容を工夫している。

高校家庭科の講座も新しい内容で計画されているが、2年計画にして回転を早め、受講者の要望に添うよう配慮した。内容も、現在最も必要視されている事項を、受講者のアンケート等を参考にして取り上げている。

中学校技術・家庭科実技研修講座は3年計画の3年次に当り内容は変わっていないが、1講座当りの人員を削減してより充実した研修が出来るようにした。また、教材研修講座（希望参加）は新しい内容で2年計画を立て、夏休みに実施することになっている。教材教具の製作が中心となるが、特に電気領域ではICを利用した選択の時間の題材を工夫しているし、家庭系列では初めて保育領域を取り上げ、指導資料の作成を中心に内容が工夫されている。

本年度の所員研究発表は、小松玲子指導主事が予定されている。高校「家庭一般」の食物に関する内容を中心とするが、特に中学校との関連を重視して、指導の系統性と実態についてまとめようとしている。2月上旬の発表会には多数参加を期待している。

## 本 年 度 の 刊 行 物 か ら

### 高等学校「理科Ⅰ実験観察カード」第2集

今回の学習指導要領の改訂によって、高等学校に必修科目として新設された「理科Ⅰ」の学習が、観察・実験等の直接経験を通して無理なく展開されるための一助として、前年度に引き続いて「理科Ⅰ実験観察カード」第2集を刊行する。

第1集に掲載しきれなかった主な観察実験法や第1集で取り上げた理科Ⅰにおける基本的な観察実験法の別法について幾つか紹介するとともにこれらの観察、実験を実施する際の留意点についても触れるようにしたいと考えている。なお、第1集同様授業に活用しやすい形式で編集する予定である。

### 高等学校社会科「現代社会」の研究

高等学校では、本年度から新設科目「現代社会」の授業が実施されている。「現代社会」は、低学年の共通必修科目であり、広領域的な基礎科目であるが、特に、学習への新しい切り込み方が求められている。

本書は、この「現代社会」の学習に役立たせるために作成するものであるが、次のような内容の学習指導資料にしていく予定である。

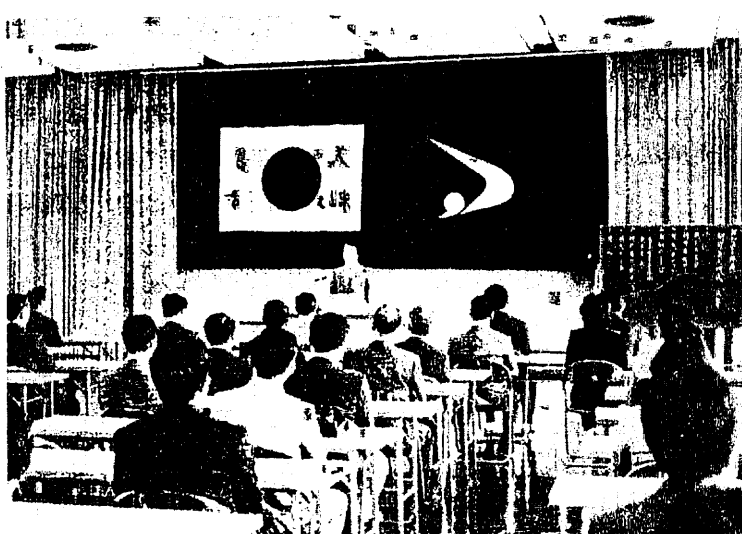
- (1) 「現代社会」の性格とねらい
- (2) 「現代社会」の年間指導計画例
- (3) 「現代社会」の授業展開例と身近な資料

8人の作成委員で研究を進め、1月には刊行したい。

# 昭和57年度研修員の紹介

本年度も、教育センターに9名、特殊教育センターに2名、計11名の先生方を、5月1日から、9月30日までの5か月間にわたり、研修員として迎えることになった。

研修期間中、研修課題による分担研修を中心に、特定講座の受講や所外施設見学等の共通研修を行う。



今年度は、特に次の点に配慮して研究に当たることになっている。研修テーマは、個人的な発想でなく、広く県内の学校で生かされるよう、県の教育の将来を見通した、先導的立場で研究の推進を図る。その成果を、学校現場の先生方に活用してもらえる研修集録第14集としてまとめる。

## 研修テーマ一覧

### 教育センター

#### <経営研究室>

- 鹿角市立十和田小学校 教諭 吉成博雄  
望ましい勤労観を育てる実践活動  
——小学校高学年の農園活動を中心に——
- 太田町立太田中学校 教諭 藤沢隆史  
中学校における生徒指導と学年経営

#### <教科研究室>

- 湯沢市立湯沢西小学校 教諭 高橋雄三  
算数における関心・態度の評価について  
——3学年の図形教材を中心に——
- 県立横手城南高等学校 教諭 泉谷周平  
「国語I」の総合的な性格を生かした扱いについて

#### <教育工学研究室>

- 本荘市立本荘南中学校 教諭 那須春樹  
個別化をめざす学習指導のシステム化  
——地質教材を通して——

#### <理科研究室>

- 男鹿市立船川第一小学校 教諭 佐藤磯男  
地域性を配慮した生物素材について  
——教科書に準じた生物暦の作成——
- 県立秋田工業高等学校 教諭 阿部正博  
工業高等学校における「理科I」について

#### <技術家庭研究室>

- 能代市立松山中学校 教諭 石川勝夫  
選択技術・家庭科における電気教材の工夫  
——ICの利用を中心に——
- 羽後町立羽後中学校 教諭 伊藤亮子  
効果的なスカート製作学習のすすめ方

### 特殊教育センター

#### <教育相談室>

- 能代市立常盤小学校 教諭 小山幹也  
小学校における児童理解のあり方について  
——いわゆる問題行動を通して——
- 県立南養護学校やまばと分校 教諭 鈴木富美子  
学習訓練室における自閉児の指導法

## 研修計画

|       |              |       |                             |
|-------|--------------|-------|-----------------------------|
| 5月4日  | 入所式          | 6月29日 | 所外研修（秋田養護学校、栗田分校、生涯教育センター等） |
| 5月14日 | 共通研修・生徒指導    | 7月上旬  | 研修経過報告会                     |
| 5月17日 | テーマ検討会       | 7月13日 | 共通研修・言語指導                   |
| 5月19日 | 共通研修・教育工学    | 8月中旬  | 研修集録・原稿執筆説明会                |
| 6月上旬  | 附属養護、中学校公開参加 | 9月上旬  | 原稿検討会                       |
| 6月中旬  | 附属小学校 //     | 9月29日 | 終了式                         |
| 6月16日 | 共通研修・教育評価    |       |                             |

## 県内教育研究機関の活動方針

県内教育研究機関協議会は、県内14市町村の教育研究所、教育センター、理科教育センターが加盟している。それらの各機関は、それぞれの地域のセンターとして、地域教育の向上を図って、教育指導に関する調査、研究、研修を行っている。

本協議会の昭和57年度総会は、去る4月30日、県教育センターで開催され、本年度の役員は次のように選出された。

会 長 荒谷 浩（県教育センター所長）  
 常任幹事 塩田孝三郎（同 教育研究部長）  
 “ 向山 清（特殊教育研究部長）  
 “ 鈴木 樹（県教育センター経営研究室長）  
 “ 小玉康夫（同 技術家庭研究室長）  
 幹 事 山本陽一（同 科学技術研究部長）  
 “ 各研究機関専任者  
 会計監査 戸部四郎（大潟村教育研究所）  
 “ 関山耕太郎（男鹿市理科教育センター）  
 事務局 秋田県教育センター担当  
 笹木政美、鎌田武美

### ○教育研究部会

当部会は、鹿角市、鷹巣町、阿仁町、合川町、上小阿仁村、森吉町、本荘市、東由利町、大潟村、大曲市、協和町、県教育センターの12機関で構成している。

「教育研究所・センターだより」7号、8号の発行をし、研究所相互の連携を強化している。

地域の相互理解を深めるための地域研修会を鹿角地区で6月28日、29日の両日開催する。9月には、由利・本荘地区で開催の予定。2月には県教育センターで研修会を開催する。

特に今年度は「生徒指導に関する調査」を共同で研究することとしている。望ましい児童・生徒の発達に即した生徒指導のあり方をさぐるため、小・中学校児童生徒及び教師の生徒指導上の問題に関する意識を調査し、その特色と改善点を究明することにより、効果的な生徒指導を進めるための参考資料にしようとしている。

### ○理科教育センター部会

当部会には、秋田県教育センターも含めて8機関加盟している。昭和57年度の活動として、次のようなことが計画された。

教材・教具等に関する研修会を行う。従来1日研修ということで計画されていたが、本年からは1泊の宿泊研修にし、9月24日、25日の両日に、秋田県教育センターを会場として行い、研修を一層充実することにした。部会の予算も少ないので多くの事業は望めないが、できるだけ充実したものにしたいし、会費も増額した方がよいという話合いもなされ、例年にない積極的な研修計画が立てられている。

この外、各センターの今年度事業について情報交換がなされ、研修会の講師の調整なども行っている。

## 「観点別学習状況の評価の進め方」の刊行

### 教育研究法委員会

昭和51年度に教育研究法委員会は発足して、小・中・高等学校の各委員、関係機関の協力によって、授業研究や教育評価などの研究を続けてきた。

研究成果として「日常実践につながる授業分析」（「授業研究Ⅰ」、「授業研究Ⅱ」）を刊行し、各学校や関係者に活用を願ってきた。

昭和55年度からは、教育評価を課題として研究に取り組み、小・中・高等学校の学級担任を対象に調査し、「教育評価に関する実態調査—結果報告書」を57年1月に発刊した。

今後の研究については、評価研究の継続として指導要録の改訂に伴う「観点別学習状況の評価」に焦

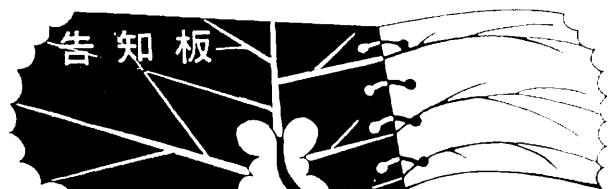
点を当て、3年計画を立てている。

本年度は、「観点別学習状況の評価の進め方」の刊行を予定し、その内容として

1. 教育課程と評価
2. 教育評価の現状と問題点
3. 観点別学習状況の評価
4. 観点別学習状況の評価の進め方
5. 研究、実践校の紹介

などを考えている。

なお、次年度以降は、「観点別学習状況の評価の実際」、「高等学校における学習指導と評価」の刊行を計画している。



人事異動

○所 員

|                 |       |                    |
|-----------------|-------|--------------------|
| 〈転任〉            |       |                    |
| 教育研究部長          | 洪谷孝一郎 | 高校教育課参事へ           |
| 科学技術研究部長        | 浅石雄次郎 | 秋田高教頭へ             |
| 総務課長補佐          | 大和進   | 西仙北高事務長へ           |
| 教科研究室長          | 佐々木清  | 秋田南高教諭へ            |
| 教育工学研究室長        | 吉富庸四郎 | 外旭川小教頭へ            |
| 総務課主事           | 原田哲子  | 県民会館主事へ            |
| 〈退職〉            |       |                    |
| 実習助手            | 土橋幸子  |                    |
| 〈新任〉            |       |                    |
| 教育研究部長          | 塩田孝三郎 | 角館南高教頭から           |
| 科学技術研究部長        | 山本陽一  | 大館商高教頭から           |
| 総務課長補佐<br>兼管理係長 | 葛西正四郎 | 義務教育課主査<br>兼給与係長から |
| 指導主事            | 須釜宣夫  | 平鹿高教諭から            |
| 〃               | 鎌田義雄  | 秋田東小教諭から           |
| 総務課主事           | 大島勇子  | 青年の家主事から           |
| 〃               | 仁平誠   | 船川水産高主事から          |
| 〈所内〉            |       |                    |
| 総務課庶務係長         | 高橋康脩  | 総務課管理係長から          |
| 教科研究室長          | 石郷岡元  | 指導主事から             |
| 教育工学研究室長        | 高橋富美雄 | 〃                  |

○研究員

|         |      |          |
|---------|------|----------|
| 〈転出〉    |      |          |
| 教育工学研究室 | 加藤尚  | 大曲中教諭へ   |
| 〃       | 斎藤善博 | 博物館主事へ   |
| 理科研究室   | 工藤英美 | 観海小教諭へ   |
| 〈転入〉    |      |          |
| 教育工学研究室 | 笹木政美 | 大館東中教諭から |
| 〃       | 村上慎一 | 雄勝中教諭から  |
| 理科研究室   | 佐藤伸雄 | 秋田西中教諭から |

図書資料室のご案内

教育研究資料件名目録(第Ⅳ集)を配布しておりますので、その活用を強く望みます。全国の教育研究資料が10,529点もあります。県内の先生方に貸出しをしておりますのでご利用下さい。

全県児童・生徒理科研究発表大会について

当教育センターと県教育研究会理科部会並びに高等学校教育研究会理科部会との共催で行われている本大会は、本年度で17回目を迎える。この大会は、県内小・中・高等学校の児童・生徒の自主的な研究活動を奨励し、研究成果を発表し合ってお互いの発展向上に役立てようとするものである。

参加者も年々増加し、研究テーマを身近な自然や生活に求めるごく自然なものからライフワークにもつながるような個性豊かな継続研究、あるいは先輩から後輩へと引き継がれた伝統的な労作など研究内容も多彩で、関係者たちから「他県を見ても、これほど充実した合同発表会は少ない」と言われるまでに成長した。

今年の発表大会は、当教育センターを会場に、11月2日(火)高等学校の部、4日(木)中学校の部、5日(金)小学校の部と3日間にわたって開催する。

多数の参加を期待している。

所 員 発 表 会

本年度の研究発表者は、教育センターの所員5名、特殊教育センター所員1名・研究員5名の計11名を予定している。研究の内容は、学校経営、教科学習指導、領域上の諸問題等、現在の学校教育上の問題点や課題の究明などを目指したものになる。研究発表会は例年どおり2月上旬を予定しているので、多数参加していただきたい。また、研究論文は「研究紀要第14集」として発刊することになっている。

第107回全国理科教育センター研究協議会並びに研究発表会(初等理科部会)が9月7日、8日千秋会館を会場に開催される。「初等理科の本質に迫る学習指導」をテーマに活発な協議や発表が行われる予定。

全国教育研究所連盟国語・芸術研究協議会について

10月22日~23日の3日間、アキタパークホテルを会場に、「創造的な表現活動を育てる指導のあり方」を主題として部会別協議会、研究発表が行われる。

編 集 後 記

小・中学校に続いて高等学校も新教育課程に入った。改訂学習指導要領・指導要録は、思いきった発想の転換を促している。新しい教育観が確立できるかどうか、ここ数年の研究実践が鍵のようだ。

教育センターだより 第29号

発行年月日 昭和57年6月20日  
編集発行者 秋田県教育センター  
秋田市仁井田緑町4番2号